

2021年8月8日の囲碁センター

オリンピック最終日男子マラソンの余韻が残るなか、八王子囲碁将棋センターに出掛けました。この日は日本棋院の甲田明子四段が子どもへ試験碁を打たれる日です。倉内満センター長よりこの日の予定を伺っていました。集まった子どもは、馬場楓真七段、三木幸翼七段、原健悟七段、増田菜々子初段、河合真優初段、長谷川愛海 2 級ら 9 人です。彼らは毎週、日曜囲碁教室で倉内氏らから指導を受けています。市民囲碁大会や子ども囲碁大会の常連でもあります。



甲田明子四段と馬場楓真君

倉内氏によりますと彼らは 3 年前までは、級位者だったのですが、メキメキと上達し、あっという間に大人の高段者と堂々と対局するまで成長しているとのこと。子どもの指導を担当するのは倉内氏に加えて、帖地美乃里氏、広島松治氏、そして日本棋院の公式審判員である森谷晶民氏らです。馬場、三木、原君との対局ではタジタジになる、とこぼ

しながらも嬉しい悲鳴を上げる倉内氏です。

甲田四段は馬場、三木、原君一人ひとりに 30 分くらいの時間をかけて局後の検討と指導をしてくださいました。そして、彼らの実力は七段にふさわしいと太鼓判を押されたようです。倉内氏は、今後の彼らの棋力の向上には、どこか



倉内 満八段と増田菜々子さん

の道場で鍛えてもらうことが大事だと考えています。他に指導を受ける場所や人がいないことや、センターだけの指導では十分でないようです。できれば、新宿や阿佐ヶ谷にある道場などで良き指導者によって鍛えてもらうことで、もっと上達するはずだという見通しです。碁漬けに近い生活ができて、ライバルが身近にいることで切磋琢磨して成長できる環境があれば、とのこと。

馬場、三木、原君はそろそろ院生への挑戦を考えているのかもしれませんが。ご両親や師匠の倉内氏に相談して今後の歩みを決めていこうと思われそうです。まずはご本人の希望を回りの人々が支えて前向きに支援していくことでしょうか。どんな世界でもプロへの道は茨の多い長い道のりです。しかし、挑戦することは誰にとっても成長につながるはずで、失敗を恐れて何もやらないことは、何も生まれなということ。3人の挑戦に期待したいものです。今回のオリンピックでもこうした挑戦は全ての選手に共通していたこと。

碁は自分で判断し、自分の着手に責任を持っていく一種のスポーツです。自分たちの将来も自分で判断し着手を探すということの連続です。人生は一本の直線ではなく、いろいろな選択ができる多様な世界です。なにも棋士になるだけが人生ではありません。小学生や中学生を弟子として可愛がり、手塩をかける倉内氏には、この3人が院生への道を見つめているかもしれぬ、



原 健悟君と三木幸翼君という期待を抱いているのかもしれませんが。もしかして今は珍しくなった誰かの内弟子として生活させたいと思っているのかもしれませんが。

2020年7月に、三木君のお父さんが八碁連だよりに「我が息子、三木幸翼との対話から」という一文を寄せてくれました。その末尾で「囲碁が得意な幸翼には将来どのような職業かふさわしいのか...親としては気になりますが、囲碁との出会いと成長が、より良い方向へ導いてくれていることは間違いないと感じています」と結んでいます。皆で若者を応援したいものです。

(取材 成田 滋)